婦人集会に参加した婦人のなかには、幼い子どもづれもあり、子どもをあやす三池主婦会員もひと苦労だった。

七月の暦

ふつき

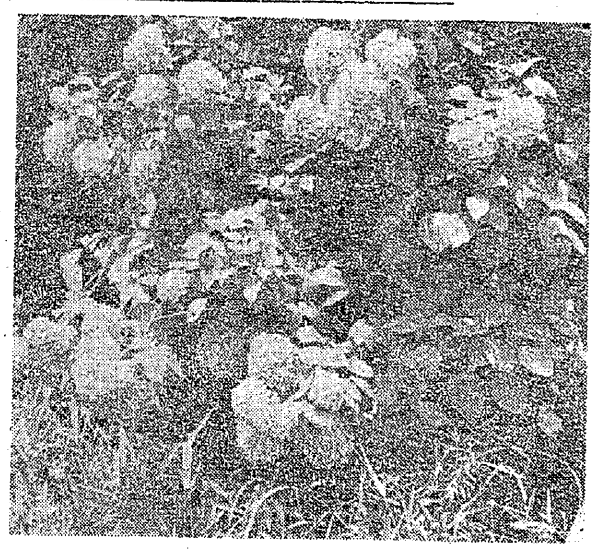
1日　国民安全の日。富士の山開き。
7日　七夕（たなばた）。
8日　小暑。
13日　ぼん迎え火。
15日　ぼん。
16日　ぼん送り火。
21日　土用の丑（うし）の日。この日うなぎを食べる。
23日　大暑。特定休日。

×

▼…長期予報では、梅雨明けは西日本ではやや早い。盛夏は猛暑の日が多くなりそう。しかし、時々寒冷前線が南下、雷雨など天候は不安定。

真夏は栄養のバランスが大切な時季。肉、魚、卵、牛乳など動物性タンパクを多くとり、新陳代謝を高めるビタミンB1（セロリーにモヤシ）・A（バター、卵、牛乳、青野菜、うなぎはタンパクとAが豊富）を。塩分調整も大事です。（以上は連合通信による）

七月は炭鉱労働者にとりわけ大切な闘争が待つ。賃金をおさえられた怒りを結集して、期末手当をとらねばならない。体に注意して闘おう。



梅雨のなか美しいあじさいの花

婦人集会参加者から暖い便り

さきに大牟田現地で開催された〝三池にまなぶ婦人集会〟参加の皆さんから、暖い連帯のお便りが寄せられています。ここにそれらのなかの一つ、三池労組に寄せられた三児の子さん（静岡県熱海市下多賀一七三）からのお便りを感謝の思いをこめて紹介します。

最良の今年でした

28歳の私に忘られぬ三池

私が大牟田へ来る決心をするまでには、次のような事がありました。

まず私には、一歳と三歳になる子供がいます。

主人は伊東友の会の会員で、社青同員です。その職場は、私鉄伊豆急行です。

住まいは町内の会館内にあり、私はそこで管理人をしています。勤務時間や休みも決まっていませんので、年中無休の状態です。子供が病気になったときでも、十分な看病をしてあげる事ができません。

主人の仕事も月に四回位い深夜業があり、その間いろいろな活動で遅くなったり、また会館の方が忙しかったりすると、日常生活も思うように行きません。

そんなとき一番しっかりしなくてはならない母親の私が精神的にイライラし、子供達のしつけにも悪影響を及ぼしてしまいます。

これまで、主人ともいざこざが絶えませんでした。管理人をしていると時間に拘束され、明日の予定もたてられないのですので、もっと時間的に自由になりたいから引っ越したいといえば、経済的にもっと苦しくなり、今度はお金の事でケンカする事が多かったのです。こんな状態がこれからも先々ずっと続くのかと思うと、自分自身がいやになりました。

二月頃主人から三池に行ってみないか、といわれました。びっくりしました。私みたいになにも活動していない主婦が行っても良いものか、と戸惑いました。一緒に行くというもう一人の方も、行こうか行くまいか迷っていました。

理由は二つありました。一つは私の住んでいる所は、保守色が強い所です。そこに、家庭の主婦が子供を主人に預けて留守をしたとすると、どうしたのかという事になります。

二つめには、恥かしい事ですが私の実家は主人が労働運動をしている事を知りません。

でも主人と同じ職場にいます奥さんにそんな事大丈夫だといわれましたし、決心して、二つめの迷いの方はだまって行く事にしました。帰って見たら、留守中に妹から電話があり、父や母、姉や妹みんなに知れわたっていましたが。

三池へ行ってからは、自分達はあたりまえの事をしているんだとの確信を得ましたので、これからは堂々とやって行こうと思っています。

私が三池に行って一番学んだことは、私達はこれまで人間らしく生きていなかった、という事に目が覚めた事です。一年に一度、家族が一泊旅行にすら行く事のできない現実。やりたくない深夜業をやらなければ、五十坪の土地すら買えない現実。今まではそれも仕方ない事だと思っていましたが、島三池主婦会長が講演の中で、「一年に一度くらい自分の親に、しっかりと生活している事を安心させてあげたい」との話を聞いて、そういう事が人間らしく生きる事なのかな、と思いました。

三池の主婦の方々の、長い闘争の中でも楽しみながら子供を育てて行った、との話には教えられました。家庭においての話し合いがいかに大切なものか、という事とともに。

二十八歳の私にとって、三池に行った事はとても良かったと思います。主人の運動を母親が理解する事によって、子供達が理解して行く。狭くても、そんな家庭を作る活動をして行きたいと思っています。

最後に、泊めていただいた山本博貫さん宅はじめ、主婦会員方の厚い歓迎に感謝いたします。

婦人の日

朝鮮婦人問題の学習会に参加して

三川指導部　緒方トシ子

六月二十三日、大手門会館において〝朝鮮婦人と連帯する会〟の第一回学習会が開催されました。

講師の、在日朝鮮人総連福岡県本部国際部長の李ウンヒさんは日本で生まれ、四十数年になりますが、外国人登録証というのがあって、一九四〇年（昭和十五年）頃から抑圧が強くなり、お風呂に行くときもそれを持って行かないといけない、ということになっていたそうです。

そして、戦前から日本に在留している人は百二十六号と呼ばれ、その子供は特定在留規格といわれ、その孫は特別在留規格と呼ばれるそうです。親の代から百年も日本に在留していても、三年に一回は登録証を更新しなくてはいけないとのこと。家族でも、別々の規格にはめこまれていること。全く人間扱いではありません。

差別はこれだけでなく、老齢年金、児童手当、育児手当、住宅や健康保険、就職、大学入試など、すべて閉されたままで、一九四五年（太平洋戦争の年の昭和二十年）以前に、日本が朝鮮を侵略し、植民地にして人民を抑圧していた当時のそのままが、いまだに続いているということでした。

各国から、今韓国に進出している企業は百三にものぼって、そのうち九七％が日本の企業だそうです。日本の資本家が韓国の労働者を安い賃金で使い、甘い汁をすっているので、とくに婦人労働者の賃金は日本の三分の一くらいという低賃金なのです。そのため、生活苦を切り抜けるのに売春婦に転落して行く例が多いということでした。

「金大中氏事件、ロッキード、ソール地下鉄問題、すべて日本が関係しており、朝鮮問題については日本は避けて通れない問題であり、日本政府は朝鮮の統一を促進してくれなくてもよいから、さまたげることだけはしてくれるな」と、強く訴えられたのことにひどく感動しました。同時に、日本政府が、朝鮮の人々を苦しめている事実も反省させられ、本当に済まない気持でした。

今日、私達の主人に合理化を押しつけ、家族にいたるまで、差別政策によって権利と生活を破かいしている資本家と自民党政府は、朝鮮の人々とともに私達の共同の敵であることを理解することができました。

改めて、困難にも負けず闘いを続けられている朝鮮の人々に心からの敬意を表し、さらに連帯を強めるために頑張らなくては、と思いました。

× ×

言葉も、文化や風習も同じ民族でありながら、外国の不当な干渉のために分断されている祖国の独立と統一、平和を願って、命をはって闘っておられる

お礼

▼…先日大牟田現地で、各組合員の家々に泊りこみのうえ開かれた〝三池にまなぶ婦人集会〟の際、CO闘争のためと三池主婦会へ、として多額のカンパがご参加の皆さんから寄せられました。心からお礼申し上げます。

なおまた、八十一人の方がCO守る会にご加盟いただきました。これからはこれらの皆さんとも手をとり合って、連帯しながら命を守る闘いの火を国じゅうに広げるためにがんばりたいと思います。ともにがんばりましょう。

生活ミニ情報

梅干料理

中毒の防止、食欲増進の食べ物として重宝な梅干。宮城県学校生協組合員の苦心作をいくつか紹介しましょう。

＜いかの梅あえ＞

①いかの皮をむいて二ツ切り、一センチ幅に。サッと塩ゆでして水気を切る。

②梅干の果肉をうらごしして、しょう油を適当な柔らかさになるまで加え、いかをあえます。

＜しその実あえ＞

青しその実と梅干を細かく刻んであえます。替わりにネギのみじん切りでも美味。

＜玄米梅干ごはん＞

玄米の中に梅干を細かく刻んでたき、たき上がりに青しそを散らします。

【連合】